

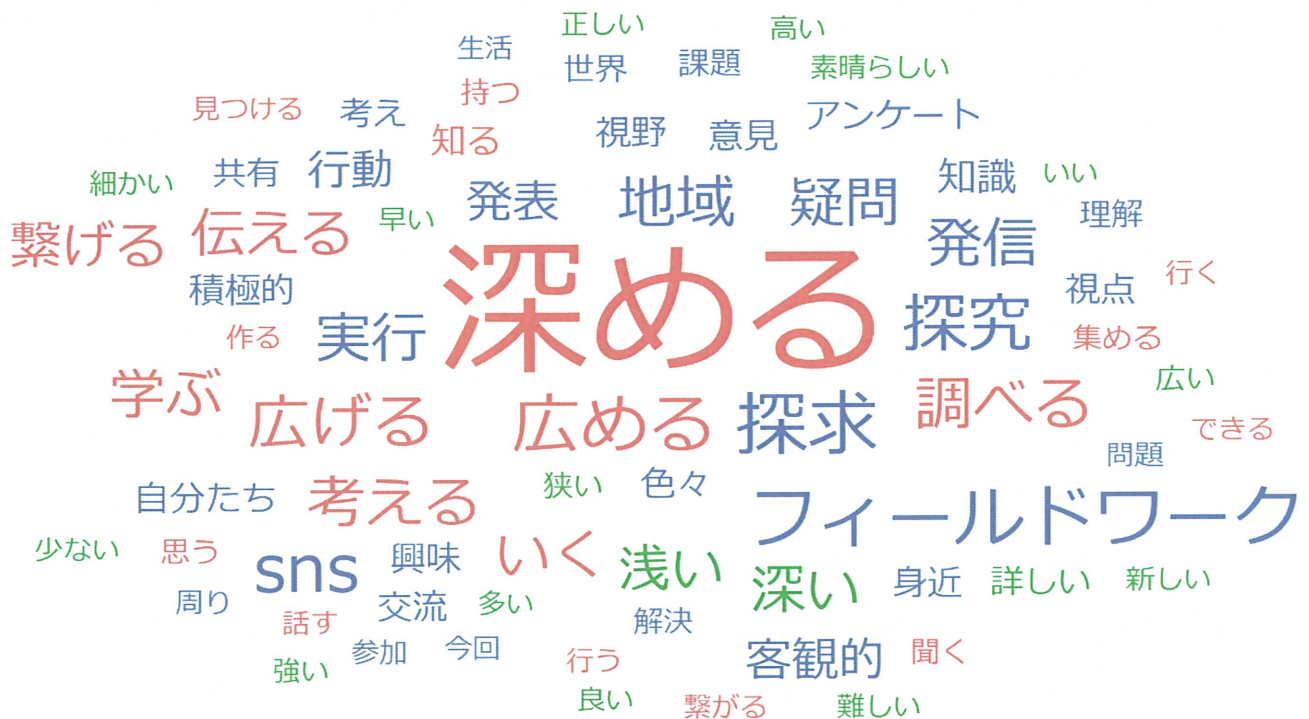


兵庫県立柏原高等学校

## 2022年度（令和4年度）活動報告集

# 翔びたて柏高！

～地域での学びを自分の未来へとつなぐ～



### 丹波から TAMBA へ・自己理解と他者理解の螺旋

地域力を活用した、「多様な価値観を共有する人材」を育成する教育課程の開発

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

【兵庫県立柏原高等学校】地域社会学科・知の探究科（令和6年度設置予定）

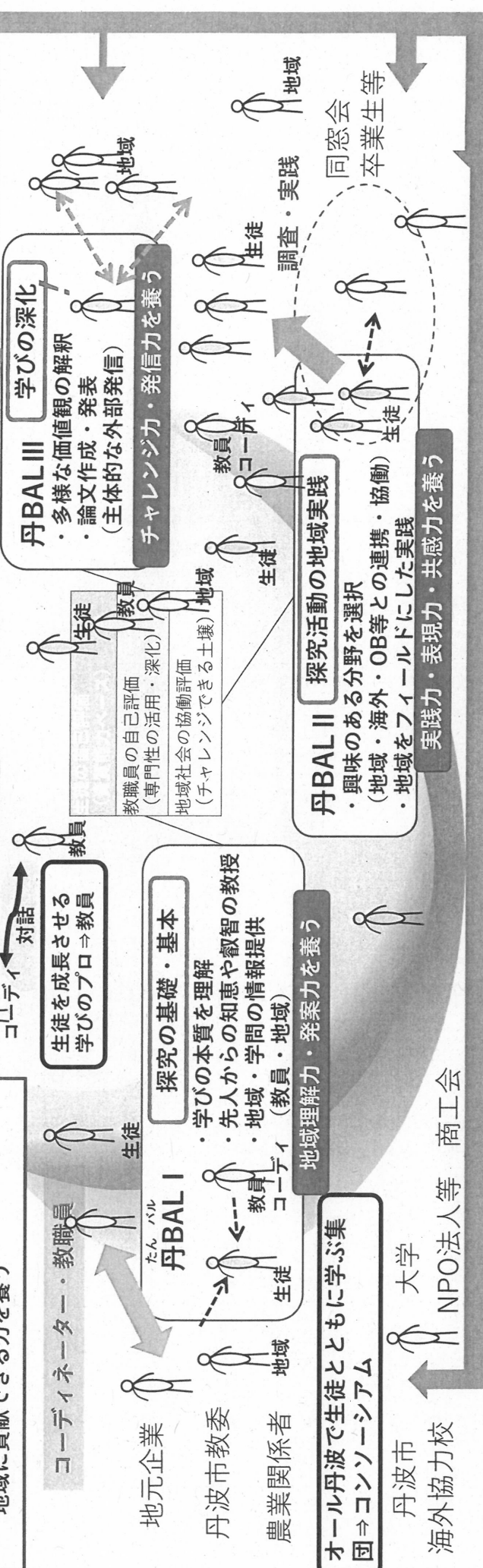
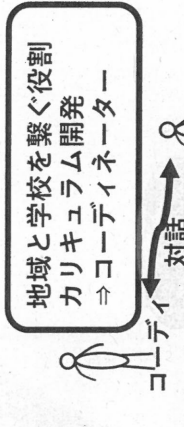
丹波からTAMBAへ・自己理解と他者理解の螺旋

地域力を活用した、「多様な価値観を共有する人材」を育成する教育課程の開発

- 柏原高校のミッション
  - ・地域を支える人材育成
  - ・全国、世界で活躍するリーダー育成
- めざす生徒像
  - ・主体的に物事にチャレンジする生徒
  - ・多様な価値観を理解し、協働する生徒
  - ・地域課題解決に寄与する生徒
- 地域のポテンシャルを活かし、地域を知る
  - ・地域のポテンシャルを活かし、地域を知る
  - ・地域探究を通して自分を知り、地域に貢献できる力を養う

共生社会で  
行動できる人材

多様な価値観を共有する人材の育成



- 3年間のミッション
- 地域資源を活かした新学科の意義を明確化
  - 学校教職員とコーディネーターの協働体制構築 → 校内分掌改編
  - 生徒の学びに対する意識変容 → 受動的な学びからの脱却

学科\学年	1年	2年	3年	合計
普通科地域探究科	40	40	40	120
普通科	160	160	160	480

## 目次

【巻頭言】	1
兵庫県立柏原高等学校長 大垣 喜代和	
運営指導委員会委員長 高畑 由起夫(関西学院大学 フェロー)	
1 研究開発実施状況	3
研究開発実施計画	3
カリキュラム開発専門家	12
ロジックモデル	13
職員意識調査	14
生徒の生活実態・学習状況および意識や活動等に関する実態調査	19
2 各学年の取り組み	25
1 学年	25
2 学年	28
3 学年	30
3 第7回「地域課題から世界を考える日」	34
4 生徒作品	40
全生徒テーマ一覧	40
1 年生	44
2 年生	47
3 年生(グローバル選択者)	49
5 新聞記事	51

柏原高校では、平成20年に普通科「理数コース」に代わって設置された「知の探究コース」が、総合的な学習の時間において「探究的な学び」をスタート、全員の国公立大学進学を目指し、特色化を図ってきました。コースの生徒は、勉強、部活動、学校行事を学校の中心となって牽引しています。また、令和元年には、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の指定を受け、地域や関係機関から様々な支援を受け、コロナ禍ではありましたが生徒の主体的な学びを学校全体で進めました。

そして、今年度から新たに文部科学省「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業(普通科改革支援事業)」の指定を受け、令和6年度に「知の探究コース」を普通科新学科として改編し、これまで培ってきた「地域からの学び」をベースに自分の将来へとつなげていくという学びを進めていこうとしています。

柏原高校は地域の進学校として、地域を支える人材育成とともに、全国、世界で活躍するリーダーの育成をめざして取り組んでいます。今後この研究指定を受け、さらに自分の可能性を信じ、主体的に物事にチャレンジする生徒、多様な価値観を理解し、他者と協働できる力を身につけた生徒の育成をめざしていきます。

新学科設置に向けては、課題研究に特化した科目を総合的な探究の時間を含めて7単位以上設定する必要があります。これまで行ってきた「探究Ⅰ、Ⅱ」の深化とともに、昨年度まで実施していた「グローバル」を含めた新たな科目の設定について研究を進めています。

この1年間は、これまでのグローバル型で行ってきた学びの上に、丹波市役所のご支援をいただきながら地域の課題をさらに深く探究するという取り組みを行ってきました。また、8月からは2名のコーディネータにも協力いただきながら、学校と地域とを繋いでいただく役割を果たしていただいています。また、今年度は新たな取り組みとして、市教委、各中学校の協力によりコースの3年生が自分の出身中学へと出向き、探究学習の成果を中学生に向けて発表する機会をいただくことができました。

新学科設置に向けては、一部の担当者だけで進めるものではなく、学校としてすべての教員がそれぞれの立場でどう取り組んでいけるかが求められます。探究的な学びは、各教科の学びの基礎の上に成り立つことはいまでもありません。今年度から始まった BYOD についても、有効に活用していく必要があります。各教科の研究とともに授業改善への取り組みも必要です。また、学校の教育活動全体が生徒の主体的な学びの場であることを意識し、将来を見通した進路指導へとつなげていき、広報活動を積極的にいながら、中学生に選んでもらえる学校づくりに務めていくところです。そのために一人ひとりがどうすべきなのか、まさしくこれも私たち教員に求められた課題解決への道、探究的な取り組みではないでしょうか。その実現のために教員が、地域が、関係機関が協働して進めていく必要があります。新学科のスタートは令和6年度、今年度試行錯誤しながら進めてきたことを基盤に、次年度へ向け、柏原高校の新たな一歩がスタートします。

今回の事業推進にあたりご支援、ご協力をいただいた丹波市役所をはじめ、地域の皆様、同窓会の皆様、大学、関係機関、丹波市教育委員会、県高校教育委員会に厚くお礼を申し上げます。地域の進学校としての今後の本校の発展のためにも、様々なご指導、ご助言をいただければと思います。どうかよろしく願い致します。

改革推進事業について、さらに大きな飛躍が期待されます

高畑由起夫(関西学院大学フェロー)

柏原高校の生徒と教職員の皆さんは、地域の方々からのご支援も得て、新しい時代に対応した高等学校への改革推進事業として「地元から、世界から、ふるさと丹波を支える人づくり」を目標に、様々な成果をあげてきました。とくに2022年度は地元社会と高校をつなぐ役割を担うコーディネーターの方々のご尽力もあり、大きなイノベーションがもたらされ、改革推進事業に具体的な形が見えてきたように思われます。

それでは、さらに飛躍をとげるにはどんな工夫が必要なのか、大学で教員を勤めていた立場から、理想的な姿を論じてみたいと思います。

まず、毎年の成果の蓄積とその継承によって、校内に“知のネットワーク”を築くことで探求学習の効率化・省力化をはかりながら、生徒の皆さんの自立性を高める。例えば、

- ・成果やリサーチ・スキルを蓄積・整理、共有化を図る(アーカイブ化)。
- ・同学年内ではディスカッション能力の向上を図り、相互評価のスキルを磨く。また、リサーチ・スキルとしてインターネット・リテラシーやデータ・サイエンスを学ぶ。とくに、インターネットで外国語の文献・資料に触れることで、英語等のリテラシーも高めましょう。
- ・学年を超えた取り組みでは、上級生から下級生へ研究成果や、リサーチ・スキルのスムーズな継承を図ることで、効率化を進め、自立性を高める。
- ・とくに、学習目標の達成度に関する規準である“ループリック”を活用し、生徒の皆さんに探求学習やネットワークについて理解や目標の共有化を図る。

さらに、次の段階は、すでに始まっていることですが、この“知のネットワーク”を高校を取り巻く様々なステークホルダーに広げることです。

- ・ステークホルダーには、保護者、探求学習でお世話になる行政や各種団体・企業、その他近隣住民の皆さん、さらに“外来者”としての観光客や外国人の方等が想定されます。
- ・その際、ステークホルダーへの説明・情報発信にループリックの評価基準を活用する(柏原高校の探求学習が何を目指しているか、どんな成果があがっているか)。また、アーカイブに蓄積された成果を発信することで、地元どんな潜在的可能性があるのか、提案する=成果の“見える化”を推進する。
- ・さらにこのネットワークを卒業生の方々や、地元の中学生の皆さんを巻き込んでいくことで、柏原高校を介した縦のつながりをさらに強化していく。

こうした過程でとくに重要なことの一つに、PDCA(Plan[計画]⇒Do[実行]⇒Check[測定・評価]⇒Action[対策・改善])サイクルでのC(=評価)が挙げられます。探求学習で達成したことを評価し、目標に及ばなかった場合は改善案を、目標を超えた場合は新たな目標を定める能力です。生徒の皆さんにとっては、自己評価・相互評価・教員からの評価・外部評価に分かれますが、これらの経験を通じてリテラシー能力を身に付け、大学やさらにその先の社会で活躍できる力を養うことが目標となります。

一方、高校にとっては、知のネットワークを通じて様々なステークホルダーの理解と共感を得ることで、柏原高校を介して地域(ローカル)と世界(グローバル)をつなげるシステムを整えることが目標と言えるでしょう。